



おきなわ多文化共生アクションプランと国際交流員の活動 ～次世代を担う子どもたちへの教育と交流の促進～

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 漢那 豊

世界に開かれた交流と 共生の島を目指して

沖縄県では、県の総合計画である「沖縄 21 世紀ビジョン」に掲げる将来像「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に向け、国籍や民族に関係なく、誰もが安心して暮らせる多文化共生型社会の構築に向けた取り組みを推進しています。

本県では、市町村の多文化共生推進施策の支援や、広域的な課題への対応が県の役割として求められていることから、2015 年度より市町村の施策を促進するモデル事業などを実施してきました。こうした基盤の上に、在住外国人数が過去最高を更新し続ける現状を受け、2025 年度には新たに「おきなわ多文化共生アクションプラン」を策定いたしました。「イチャリバチョーデー（一度会えば皆兄弟）」の精神を指針とし、外国人を地域社会を共に創る一員として迎え入れる社会の実現を目指しています。

このプランの推進において、中国、ペルー、オーストラリア、韓国の 4 カ国から招致した国際交流員（CIR）は、行政と地域、そして次世代をつなぐ重要な役割を担っています。

次世代を担う子どもたちへの 教育と交流の促進

「おきなわ多文化共生アクションプラン」の施策の一つとして、次世代を担う子どもたちへの教育が掲げられています。本県では「幼少期における多文化共生教育の実施」や「幼少期における多様な国籍の人々との交流機会の創出」を具現化するため、CIR が教育現場へ積極的に足を運び、直接的な交流を図っています。

① 1,700 人以上の生徒へ届けた「出前授業」

2025 年度、CIR は県内 21 校（小学校 7 校、中学校 2 校、高校 10 校、特別支援学校 2 校）を訪問し、計 22 回の出前授業を実施しました。参加した生徒数は延べ 1,715 人にのびります。

各国の CIR が自国の文化や社会の多様性について語る講座は、生徒たちが「違いを尊重する心」を育む貴重な機会となっています。高校生向けの講座では、多文化共生の課題について英語や各母国語を交えて議論するなど、より深い相互理解の場を提供しました。



小学校での出前授業

② 絵本読み聞かせ会

プランが掲げる「幼少期からの教育」の実践として、県内の図書館で「絵本読み聞かせ会」を計 22 回実施しました。幼い頃から外国人と触れ合い、外国の言葉や遊びを体験することは、偏見のない柔軟な国際感覚を養う土壌となります。2025 年度は 452 人の子どもたちが参加し、異文化を身近に感じる機会となりました。



図書館での絵本読み聞かせ



市民向け講座での文化紹介（お菓子作り）

地域・職場における 多文化理解の広がり

① 職員の国際対応能力の向上

県庁内では、職員を対象に CIR が講師を務める語学・文化教室が定期的で開催されています。中国語、スペイン語、韓国語の各講座では、昼休みなどの時間を活用して多くの職員が参加しました。

② 市民向け講座を通じた地域交流

一般の県民を対象とした講座も 8 件実施され、公民館などでの語学教室や文化紹介を通じて、地域社会における国際交流の輪を広げています。こうした地道な交流が、アクションプランの目指す「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の土台となっています。

共生の島・沖縄の実現へ

「おきなわ多文化共生アクションプラン」が目指すのは、誰もが「沖縄に来てよかった、住んでよかった」と心から思える、安心して暮らせる世界に開かれた社会です。

今回ご紹介した 2025 年度の活動は、児童生徒をはじめとする多くの県民にとって、多文化共生への意識や国際感覚を育む貴重な機会となりました。

4 人の国際交流員が沖縄への深い愛着を持って活動してくれることに心から感謝し、県としても同プランを軸に、世界に誇れる「交流と共生の島」の実現に向けて、取り組みを推進してまいります。

おきなわ 多文化共生アクションプラン



おきなわ多文化共生アクションプラン

